



No.6

であ

# SHINRANSHONIN



私たちは、どんな人ともどんな場所ともいつかは別れ、離れていかなければなりません。楽しい時間も苦しい時間も過ぎ去っていきます。大好きな人とも、大嫌いな人とも、まだいたい場所も、もういたくない場所も、いつかは別れ、離れていきます。

でも別れることのないであいいがあります。たとえ離れてしまっても、私を支え続けてくれる場所があります。

親鸞聖人は二十九歳のときに法然上人という先生とであいました。法然上人は吉水の草庵で人々にお念仏をすすめ、阿弥陀さまのころを説いておられました。阿弥陀さまのころとは、だれのことも「良い・悪い」「すき・きらい」とえらんんだり、きらったり、けっして見捨てることのない、いつでも私に寄りそってくださるお念仏の

ころです。

吉水の草庵ではお坊さんも普通の生活をする人も、どんなに貧しい人もお金持ちも、身分も、性別も、能力も、年齢も、職業も、住んでいるところも関係なく、様々な人が法然上人からお念仏の教えを聞いていました。親鸞聖人もそこで一緒に教えを聞いていましたが、その時間がずっと続くことはありませんでした。

親鸞聖人にとって法然上人とのであいは、先生そして一緒に学ぶ友だちと、その場所とのであいでした。そのであいによって親鸞聖人は、阿弥陀さまのころにたずね続ける道を歩んでゆかれるのです。その場所で過ごしたのは短い間でしたが、親鸞聖人の長い一生を支え続けた、別れることのない大切なであいだったのです。

—〈慶讃テーマ〉—

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

しん らん しょう にん  
親鸞聖人 であい

